

パブリックコメントについて

いただいたご意見の要旨	回答(町の考え)
<p>【施策1】安産の郷構想について 日本経済新聞により、批判されているが「必要性」「有効性」「安全性」の議論は十分出来ているのか？また森のようちえんとの連続性が不可思議</p>	<p>産科医の設置は必須とし、県立中央病院の後方支援を受けることにより、安全性は確保できると考えています。また「森のようちえん」をきっかけとして移住を検討する人も多く、森のようちえんは子育て環境の選択肢の一つとして考えています。自然の中での子育てが色濃く表れており、本町の特徴を生かしています。</p>
<p>【施策2】自伐林家の郷構想について 自伐林家で食べていけるのか？森林組合が行っている「経営計画」の流れ中で整備した方が良いのでは？</p>	<p>現在まで自伐林家の育成が滞っており、自伐林家が生業としていけるための取組です。森林組合との連携は図ります。</p>
<p>【施策3】「杣(そま)塾」の開催 誰のための、何のための施策か？美しい言葉だけなのでは？ 森林組合の機能強化で良いのでは？</p>	<p>農山村滞在への関心も若年層が増加傾向(グラフ参照)にあり、同時に全国的に林業従事者も増加しています。このため、林業に関心のある若年を中心に開催します。また森林組合との連携は図ります。</p>
<p>【施策4】メンタルヘルスの郷構想 「森林セラピー」と「民泊」に力を入れたいのであれば分析が必要。 メンタルヘルスと言う言葉はわかり易いが、違和感がある。 高齢者の見守り体制の切り口のすわりがおかしい。 集落ビジネスは無責任。</p>	<p>癒しをテーマにしている本町において、森林セラピーと民泊は注力する事業と位置づけています。したがって、これらを活用した集落・地区への活性化を目指すものです。都市部企業においても、関心度は高い感触を得ていますので、今後積極的なPRを行います。集落の維持には、高齢者の介護予防、見守り体制の整備は必須であり、集落と都市部の交流を行いながら集落組織の見直し、強化を行い、活性化につなげるものと考えています。集落ビジネスについては、今後の検討課題だと考えています。</p>
<p>【施策5】地域資源を循環、有効活用する 「必要性」を吟味すべき</p>	<p>智頭杉、主に鹿の被害の対策を資源として活用することを目指しています。てんこ盛りとのご指摘のとおりですが、現在実施している事業もあり、ニーズはあると考えています。</p>
<p>【施策6】本物の農産物供給体制 本物の農産物の意味は？ 競争力を高めるには？</p>	<p>化学肥料をなるべく使用しない、あるいは使用しない農法を目指しています。このことにより高付加価値がつくものと考えています。</p>
<p>【施策7】図書館を中心にした賑わい創出 図書館と創業支援の結びつきがわからない。</p>	<p>図書館機能の一つとして「レファレンス」があり、この機能を県立図書館との連携を強化しながら進めることを想定します。しかしながら、ご指摘のとおり細やかな提案は難しいと考えますので、創業支援については検討の結果記載しません。</p>
<p>【施策8】公民連携事業の積極的な検討及び実行 言葉の意味がわかりません。</p>	<p>行政と民間企業間で住民サービスの向上や地域経済の活性化を図るための施策です。十分な調査研究を行い、民間のノウハウを取り入れることで財政の安定化にも繋がる可能性があります。</p>

	いただいたご意見の要旨	回答(町の考え)
1 つづき	【施策9】起業・創業に伴う資金確保のシステムを構築 金融機関や中小企業基盤機構が既に行っています。	金融機関や中小企業基盤機構等との連携も視野に入れ、体制整備について検討していきます。
	【施策10】誘客促進事業 総合戦略に記載することではない。	ふるさと納税等を活用しながら、智頭町を訪れる方を増加させる施策です。外部から魅力があると認識されはじめているため、切り口について検討していきます。
	【施策11】出会いの場「婚活」 出会いの場の提供を婚活という組み合わせでいいのでしょうか？	結婚を前提としたイベントは重いと策定委員会でも指摘がありました。このため、「恋」からはじめる意味を込めて「恋活」としました。出会いの場をなるべく創出していきたいと考えています。
	【施策12】東部圏域をはじめとする近隣自治体との連携による移住定住促進及び観光事業 ・戦国時代と町長の言動の中で、このコラボレーションはやりにくいのでは？	ご指摘のとおり自治体同士の魅力をいかにPRできるかがポイントの総合戦略において、連携によりそのポイントが薄れていくことが考えられます。本町としては、協力できることは協力し合い、その中で「智頭町らしさ」をPRしていくことを考えています。
2	移住定住を促進する中で、10代、20代の若者の転出を抑制する。 ・通勤範囲内に就職することで人材育成を図る ・非正規から正規雇用の転換を図る ・智頭町版人材育成バンク(仮称)の登録により、専門分野・高度技術者の育成定着を支援する。 高齢化社会を逆にとり、高齢者の農林業創業ビジネスで雇用創出	若者の転出抑制については、長期的に行う必要があり、総合戦略に限らず支援あるいは対策について検討をしていきます。 高齢者の雇用創出については、技術を有する人が多いので、【施策3】「塾塾」での講師、【施策6】本物の農産物供給体制での活用を検討しています。

○農林水産業における若年者率の推移

